

発達障害児の支援の見立てと連携 ~つながりながら支援をするために~

第48回全国特別支援教育センター協議会研究協議会
2024.10.31

愛知県医療療育総合センター 子どものこころ科 (児童精神科)
あいち発達障害者支援センター 副センター長
愛知県中央児童・障害者相談センター 児童専門監
吉川 徹

1

支援の見立て

- 何を見立てればいいのか
 - 医療機関だから診立てが必要
 - 生得的な特性の評価
 - 獲得されたスキルの評価
 - (最終的な)アウトカムの評価

2

アウトカムは何か

- QOL (Quality of Life)
 - 現在のQOL
 - 将来のQOL

3

今日のお話

- 「発達障害」のある人のQOL
 - QOL向上への介入と評価
 - QOL向上を目標とする連携

4

いわゆる「発達障害」

- 自閉スペクトラム症 ASD
- 注意欠如・多動症 ADHD
- (限局性)学習症 (S) LD

他にもチック症、吃音症などが含まれる。

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。
(発達障害者支援法による定義)

5

「発達障害」は動機づけの差異

- 社会的動機づけへの反応の乏しさ (自閉スペクトラム症)
- 遅延報酬への反応の乏しさ (注意欠如多動症)
- 活動の「燃費」の悪さ (発達障害一般)

6

成人期の「生活の質（QOL）」

自閉スペクトラム症成人の高いQOLを予測する因子（WHOQOL-BREF）

プラスの影響		マイナスの影響	
身体的領域	雇用されている	女性	精神疾患の診断 症状の強さ（SRS）
心理的領域		女性	精神疾患の診断 症状の強さ（SRS）
社会的関係	パートナーがいる 支援を受けている 高い教育歴	年齢	精神疾患の診断 症状の強さ（SRS）
環境	支援を受けている	女性	精神疾患の診断 症状の強さ（SRS）

Autism Research 11(8), 1138-1147.

7

誰に聞くのか

- 本人と家族の報告するQOLにはずれがある
 - J Autism Dev Disord (2015) <https://doi.org/10.1007/s10803-015-2678-0>
- では、話せない人のQOLは誰に聞くのがよいのか

8

WHOQOL

- 6領域
 - 身体的領域、心理的領域、自立のレベル、社会的関係、環境、精神性/宗教的/信念
- 短縮版では4領域
 - 身体的領域、心理的領域、社会的関係、環境
- <https://www.who.int/tools/whoqol/whoqol-bref/docs/default-source/publishing-policies/whoqol-bref/japanese-whoqol-bref>

9

そもそも

- 自閉スペクトラム症の人のQOLは、多数派の人と同じ尺度では、測定できないかもしれない。
 - Autism in Adulthood (2021) <https://doi.org/10.1089/aut.2020.0053>
- 専用の尺度を開発してみよう
 - Autism in Adulthood (2021). <https://doi.org/10.1089/aut.2019.0008>

10

行動的QOL

- QOL: Quality of Life
- 行動的QOL: 正の強化で維持される行動の選択肢の数

星月昭 行動医学研究 7, 8 17 (2001).

11

行動的QOL

- 第1のレベル: ある状況で選択はできないが、正の強化で維持される行動が個人に準備されている。
- 第2のレベル: 個人にいくつかの選択肢が準備され、それぞれの選択ができる。
- 第3のレベル: 個人が既存の選択肢を拒否して新しい選択肢を要求できる。

高山, 中鹿 対人援助学研究 11, 48-59 (2021)

12

今日のお話

- 「発達障害」のある人のQOL
- QOL向上への介入と評価
- QOL向上を目標とする連携

13

QOLの評価

- 「やりたいからやっている」ことがどれくらいあるのか
- 「やりたいことが増えていく」環境で暮らしているのか

14

スキルの評価

- スキルの評価は「やむを得ず」行う
 - 次に挑戦したくなる課題を発見するために必要だから、やりたくないけど、やらないわけないもいかない

専門家がスキル評価を最終的なアウトカムとして感じると、本人、家族の目が「やりたくないこと」より「できること」に向いてしまう

15

「できること」より 「やりたくなること」を目指す

- 子ども時代に「できる」ようにすることは難しい
 - 力でのコントロール
 - 罰でのコントロール
 - ルーティンや理念でのコントロール
- でも「できる」けど嫌いになる…

16

何を目指すのか

- 歯磨きができる or 歯磨きがしたい
- 絵が描ける or 絵が描きたい
- 就労できる or 就労したい
- 自立できる or 自立したい
- 完成できる or 挑戦したい

17

発達障害と「能力」

- 能力への注目は「賽の河原」
- 能力主義との訣別
- 「できること」より「やりたいこと」

□ 吉川徹 自閉スペクトラム症の長期展望 臨床精神医学 50(11), 1239-1243, 2021.11

18

医療者に求められる「態度」

- スキルの「軽視」
 - 専門家がスキル獲得には興味がないんだということを、本人、家族に知ってもらおう
- その上で、どんな人生を選ぶのか、本人に決めてもらう

19

「できたら褒めましょう」の落とし穴

- 大人が完成や達成、勝利だけに関心があると子どもが勘違いすると、こじれが生じやすくなる。
- 大人は「挑戦と失敗が大好き」である振りをするのが無難。
- 取りかかり始めたら応援する。
 - できたときの報酬は本人の達成感、満足感でわりと事足りる。

20

課題の回避を回避する

- 課題を達成すべきものと思わせない
- 課題は挑戦すべきものだと思わせる

21

俗に……

- 結果よりプロセスを褒めよう
- 能力より努力を褒めよう
- 成功報酬より成果報酬を **再現性問題あり!**

Mueller and Dweck (1998) 10.1037/0022-3514.75.1.33

22

挑戦の価値を体験する

- 挑戦のやりがいと方法を本人と家族に体験してもらう
- 挑戦の仕方をお土産に持ち帰ってもらう

23

必要な支援は何か

- 各人で異なる行動の動機を用意すること
 - 社会的・非社会的な動機づけ
 - 好きなものごとを増やす
 - 嫌いなものごとを増やさない
- 遅延の少ない報酬

24

必要な支援は何か

- 燃費の悪さへの配慮
 - 全ての課題を自力で達成することを、目標にしない
 - 消耗しすぎる課題を回避する
 - 十分な休息を用意する

25

余暇活動の重要性

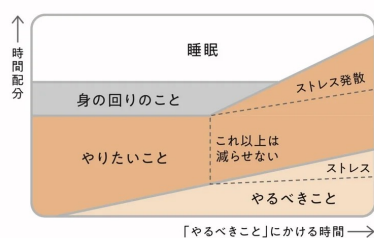
- 自閉スペクトラム症のある人では余暇活動の満足度が低い
- 自閉スペクトラム症のある人の抑うつ症状の低さは高い余暇活動の満足度と関連している。

□ Autism 23(4), 993-1004.

26

ワークライフバランス

発達の特性がある人の時間配分



出典: 拙著「発達障害 生きづらさを抱える少数派の「種族」たち」(SBクリエイティブ)

発達障害の人ほど「リベンジ脳みかし」をやめられないメカニズム
<https://note.com/diamondbooks/n041416758264>

27

余暇の重要性

- 仕事をしない人生はありうるけれど、余暇のない人生はありえない
- 余暇の充実が就労の動機になりうる

28

必要な支援は何か

- 理念への傾倒を回避する
 - 完璧主義による消耗の回避
 - 自立への執着の回避
 - 「手伝ってもらってはいけない」

29

理念への傾倒を防ぐ

- 「仕事は完璧であるべき」
- 「他の人と同じであるべき」
- 「休まず働くべき」
- 「仕事にはやりがいがあるべき」
- 「人間は自分の食いつけを稼ぐべき」

べきおぼけ
©NHK

理念への傾倒は健全な就労と自立の妨げになる

30

理念への傾倒による呪縛

- 言葉を「字義通り」に捉える子ども達
- 「〇〇しましょう」
 - 多数派の子どもは上手に相対化して受け止める
 - それが難しく、ドグマになってしまう子ども達がいる

31

就労と自立の準備

- 就労の動機を準備する
- 自立の動機を準備する
- 就労と自立を妨げるものを身に付けすぎない
 - 無理のない範囲のスキル獲得

32

高校生年代の進路選択

- 働き方を考え始める
 - たくさん働いて、たくさん使う
 - そこそこ働いて、そこそこ使う
 - 少し働いて、少し使う
- どの暮らし方が「似合う」子どもですか？

33

依存先を増やしていくこと

- 自立は依存から始まる ©熊谷晋一郎
 - 困ったときに、自分から助けを求められることができますか？
 - SOSを出せない人には見守り（＝監視）が必要

34

大学生はなぜ下宿したがるのか？

- 自由に暮らしたいから
 - 見張られていたくないから
 - 世間が怖くないから
 - 困ったら助けてもらえると思っているから
- 発達障害があっても基本は同じ

35

自由を求める

- 自分で決めるとよい結果が得られる
- 自分で決めると悪い結果でも納得できる
 - 選択の機会の積み重ねが、自由を求める心に繋がる……と信じる
- 自由な暮らしのために、人に頼ることを自ら選べる

36

必要な支援は何か

- 中長期的には
 - 社会的報酬に対する反応性の向上
 - 遅延報酬に対する反応性の向上
 - スキル獲得、補完方法開発による燃費の改善
 - 嫌いにならない範囲で

37

こじれの徴候に気づく

- 環境を評価するのは極めて難しい
- 環境の「副作用」には気づきやすい
 - 嫌いなものが増えていないか
 - 疲れが貯まってきていないか
 - 併存症を発症していないか

38

今日のお話

- 「発達障害」のある人のQOL
- QOL向上への介入と評価
- QOL向上を目標とする連携

39

非医療領域は……

- 就労>健康
- 就労>QOL
- 能力>欲望
- できること>やりたくなること

どうしてもこうなりやすい

「健康」への注目を取り戻すことが医療の役割

40

我々は働かなければならないのか

- 第1のレベル: 働かなければならないが、給料をもらえる職場がある。
- 第2のレベル: いくつかの就職先の選択肢が準備され、それぞれの選択肢ができる。
- 第3のレベル: 働くことを拒否して新しい選択肢を要求できる。

41

ユニバーサル・ベーシック・インカムの可能性

- Universal Basic Income: UBI
 - 全ての個人を対象に、キャッシュを無条件に支給する制度
 - 働くことと働き方を選び取れる制度?

42

UBIとメンタルヘルス

- 無条件現金給付は、メンタルウェルビーイングに対し、明確で有意な改善を示している。

Wilson & McDaid, Soc Sci Med 287, 114374 (2021).

43

働きたくなるために

- 働かない選択肢が保障されているなら
 - 働きたくなるように支援することは許されるのではないかと？
 - 働くことを選び取るための支援

44

「欲望形成支援」

- 意思ではなくて欲望
- 決定ではなくて形成
 - ©國分功一郎

□ <http://igs-kankan.com/article/2019/10/001185/>

“過去との連続性や周囲とのつながりのなかで、「自分は何をどう欲望しているのだろうか」について誰かと一緒に考え、自分の欲望の形をハッキリさせていく、そういう支援のほうが大切ではないか”

45

欲望と理念

- 「やりたい」からやっている
- 「やりたい」のにできない
 - 「挑戦したい」「挑戦したくない」
- 「やらなければいけない」からやっている
- 「やらなければいけないの」にできない
 - 「挑戦したくない」のにさせられる

46

支援者たちの仕事

- 焦る本人（と家族）を安心させること
- 焦りに繋がる圧力を弱めること



47

連携の視点から それぞれの役割を考える

- 教育 挑戦とスキル獲得
- 福祉 休息とセーフティネットの確保
- 医療 こじれないための助言とこじれの早期発見。大きなこじれが生じたときの対応。

48

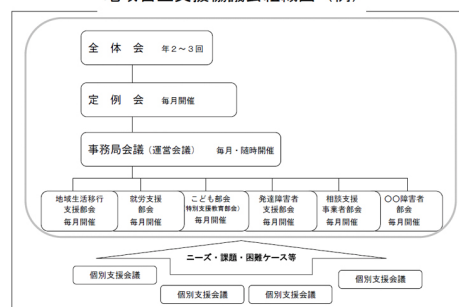
連携の中での医療の役割

- ライフステージを通じた関与が医療のアドバンテージ
- 短期的な対応より長期的な見通し
- 医療は成功する方法は知らないが、失敗する理由はよく知っている
- セーフティネットの重要性

49

地域自立支援協議会

地域自立支援協議会組織図（例）



（出典：財団法人日本障害者リハビリテーション協会『自立支援協議会の運営マニュアル』p24）

50

資源配分を考える

- 発達障害の有病率はあまりにも高い
- 地域の資源は有限である
- 資源の有効活用のためのケース会議
 - 重症の事例ではケース会議が効率を高める
 - 軽症の事例のケース会議は全体の効率を落とす
 - 見極められる立場にいるのは誰か

51

鍵になれる可能性があるのは 相談支援専門員

- 子どもと家族が相談支援専門員とともに、次に挑戦してみたい、好きになりたい活動を選べること
- そこに近づくための資源の選択肢が地域の中で見つかること
- 資源開発に協力できること

52

SSWへの期待

- 全体を見通せる立場になれる可能性
- 学校の中での立場が弱い？
 - 地位と発言力の向上が必要？？

53

「連携」を考える

特別支援教育センターへの期待

- 「チーム学校」の後方支援
- 「特別支援教育」にソーシャルワークが欠かせないことを啓蒙すること
- 学校に「ソーシャルワーク」を導入すること

54

「連携」を考える

特別支援教育センターへの期待

- 「教育」の役割が漏れださないようにすること
 - 学校で教えられないから福祉で？
 - 学校で教えられないから医療で？
- 低学年でこじれないための支援
 - 「できること」より「やりたくなること」
 - 一般の教育を変えていくこと？

55

支援の目標はなにか

- 一言では語りにくい
 - 関係機関の数だけ「目標」がある……かも
 - ばらばらのままでも支援はできる……かも
- 最低限、足並みをそろえておきたいところはどこか？

56

支援のための連携

- 連携は目標と役割の摺り合わせ
 - 頑なに目標を変えない機関
 - 自分の役割から一步も出ない機関、他者の役割にずけずけと踏み込んでいく機関
 - このような機関との連携は難しい
同床異夢には限界がある

57

重症の事例こそ……

- こじれている事例ほど、目標の摺り合わせが必要
 - 支援者の「理念への傾倒」は解決を送らせる
 - 行動的QOLの向上を目標に

58

夢を共有するために

- 納得できる全体像のアセスメント
- 説得力のある成長、回復のストーリー

59

まとめ

- 連携の中で「健康」の価値を共有していくこと
- 発達障害者にとってのQOLの物差しは多数派の人と違う可能性があることを共有すること
- 「挑戦」の価値と方法を共有していくこと

60